



京都府歯科医師会

よ坊さんだより

▼21▲

ができます。十代の方の4割近くが歯肉炎に、50代の方の6割以上がこの歯周炎に罹患しているとのデータが示されています。

歯周病は、むし歯と並んで「歯科の二大疾患」と呼ばれています。すなわち、皆さんがかかりやすい歯・

あり歯を支える骨）に起こる病気の総称で、以前は歯槽膿漏（そうじゅうろう）という言葉が一般的

また歯周病は、高血圧症や糖尿病と同じく生活習慣病と呼ばれるように、日常生活の習慣や嗜好がその病

今回から「シリーズ歯周病」として、歯周病とはどんな病気か、その治療法やセルフケアについて、さらには全身疾患との関わりやリスクファクターについて、連続して解説していく予定です。ぜひ続けてお読みください。

全身に及ぶ悪影響

お口の中の病気で、歯周病の原因の4割強をむし歯が、残りの4割強を歯周病が占めています。

歯周病を分類すると、その初期症状として主に若年者に発生し、症状（炎症）が歯ぐきにのみ起こる歯肉炎と歯槽骨にまで炎症が波及した歯周炎に分けること

気の進行や悪化に大きな影響を及ぼします。その典型的なものは喫煙で、たばこは歯周病を増悪させる要因（リスクファクター）の一つです。さらに近年、歯周病は歯を失う原因になるばかりでなく、心臓疾患、脳血管障害や誤嚥性肺炎など、全身の健康状態に悪影響を及ぼすことが明らかになっています。

（京都府歯科医師会広報担当理事 内藤雅文）

＊「よ坊さん」は日本歯科医師会のイメージキャラクターです。

歯周病①

歯周病は文字通り、歯の周りの組織、つまり歯ぐきや歯槽骨（歯ぐきの内側に

（京都府歯科医師会広報担当理事 内藤雅文）

＊「よ坊さん」は日本歯科医師会のイメージキャラクターです。